

第32回社会福祉士・第22回精神保健福祉士 国家試験 受験対策 web 講座

社会理論と社会システム 武山 梅乗（駒澤大学）

- ・ 社会学者。
- ・ 駒澤大学非常勤講師、明治学院大学、都留文科大学、愛知県立大学でも社会学の講義、演習を担当しています。
- ・ 宮城県石巻市出身。明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学。
- ・ 主な研究領域は文化社会学（特に表象文化論）、コミュニティ論など。
2013年、10年に及ぶ沖縄表象文化研究の成果である『不穏でユーモラスなアイコンたち—大城立裕の文学と〈沖縄〉—』（晶文社）を上梓、東日本大震災以降は「園芸福祉」にも目を向け、その「新しい社会運動」としての重要性に着目しながら、全国各地においてフィールドワークを継続しています。
- ・ 多くの受験生にとって「社会理論と社会システム」は出題範囲が広く難しい科目であると思われていますが、頻出テーマは限定されています。
効率的な学習を心がけてこの科目で少しでも多くの点を獲得してください。



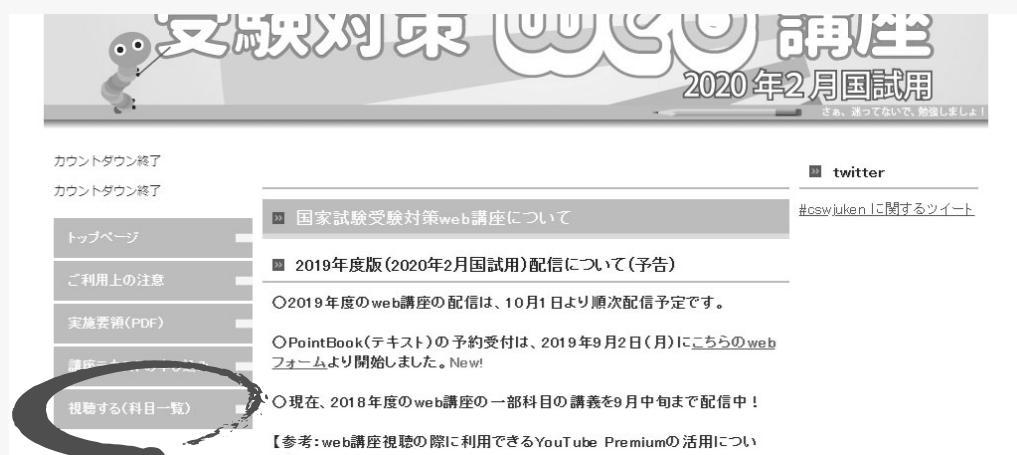
受験対策 web 講座

視聴方法



アクセス用 QR コード

- ① 日本ソーシャルワーク教育学校連盟ホームページに開設されている『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験対策 web 講座 特設サイト』にアクセスしてください。
- ② ホームページの左側にある【視聴する（科目一覧）】各科目名をクリックすると、該当科目の講座映像が視聴できます。



- ③ このページ下部の『web 講座の利用について』『ご利用の前に』をよくお読みの上、視聴してください。

受験対策 web 講座の 利用について

本連盟がこの web 講座映像配信で利用している動画配信サイト【YouTube】は、利用規約により、講座映像の商用利用を禁止しています。

この web 講座を、パブリックビューイング形式（独自に会場等を設定して講義映像を放映し、複数の方が視聴すること）で利用する場合、参加費等の費用を視聴者から徴収することはできませんのでご注意ください。さらに、受験対策 Point Book をコピーして配布することは、固く禁じます。

なお、【YouTube】の利用規約に違反し、損害賠償や訴訟等法的措置が講じられた場合は、当該違反者がその責任を負うものとし、本連盟は一切の責任を負いません。

ご利用の前に

- 『受験対策 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』は、国家試験直前の受験対策として本連盟が作成しています。『受験 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』は、必ずしも国家試験の合格を保障するものではありませんので、各自の判断によりご利用ください。web 講座映像や受験対策 Point Book の視聴・購読によって、視聴した者及びその関係者が不利益を被った場合も、本連盟及び当該科目担当講師は一切責任を負いません。
- 本講座では、個人からの講義内容に関する本連盟及び講師への意見・質問・疑義照会は受け付けておりません。
- 『受験対策 Point Book』は、各講師が国家試験までに最低限押さえておくべきポイントを絞って作成しています。講義内で口頭のみで説明している内容は、各自調べて理解を深めてください。
- 『受験対策 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』の内容に万が一訂正があった場合は、特設サイト内の当該講座の視聴ページに訂正・補遺を掲載します。
- 『受験対策 Point Book』の点訳資料及び講義映像内の字幕・手話通訳はご用意できません。
- 乱丁・落丁本はお取り替えしますので、現物を着払いでご返送ください。

I. 人と社会の関係

この大項目には社会学において重要な概念が多数含まれている。それは①**社会的行為**、②**地位と役割**、「**囚人のジレンマ**」や「**共有地の悲劇**」などの例で示される③**社会的ジレンマ**、P. ブルデューやR. D. パットナム、M. グラノヴェッターやN. リンなどによって展開されている④**社会関係資本**についての諸理論、キーワード等である（第27回ではソーシャルキャピタル（社会関係資本）、第28回では「社会的ジレンマ」、第29回では「社会的行為」及び「社会的役割」、第30回では「社会的役割」「社会的ジレンマ」、第31回では「社会的行為」及び「社会的ジレンマ」からの出題があった。今後もこの項目からの複数問の出題があると考えられる）。

第29回 問題19

社会理論における行為に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 行為とは、行為者自身にとってどのような意味を持つかとは無関係に、他者から観察可能な振る舞いを意味する
- 2 伝統的行為とは、行為対象に対して直接の感情や気分によって行われる振る舞いを意味する。
- 3 価値合理的行為とは、過去の経験に基づき諸個人の内に身についた知覚・思考・実践行動を生み出す性向を意味する。
- 4 コミュニケーション的行為とは、他者の選択を計算に入れながら、あるいは他者の選択に影響を与えることによって、自己の目的の実現を目指すものを意味する。
- ⑤ 行為の意図せざる結果とは、ある意図によって行われた行為自体が、思わぬ影響をもたらすことを意味する。

第27回 問題20

ソーシャルキャピタル（社会関係資本）の説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 補助金などの形で政府や市町村が提供する資源
- 2 地域固有の景観や歴史的建造物などの資源
- 3 教育や職業訓練などによって醸成される個人の能力という資源
- ④ 信頼、規範、ネットワークなど、人々や組織の調整された諸活動を活発にする資源
- 5 道路などのように国民が共同で利用する公共的な資源

1. 社会的行為

M. ウェーバーは、「行為」を行為者自身にとって何らかの意味（主観的意味）をもつものであるとし、行為者にとって意味をもたない「行動」と区別する。また、ある人の行為が他の人々との関連においてなされる場合、それが社会的行為である。ウェーバーは行為者の動機という観点から、社会的行為を①その行為がもたらす将来の結果の予測をもとに、目的達成のために合理的に考慮されている**目的合理的行為**、②その行為がもたらす結果とは無関係に、絶対的な価値にもとづいて行われる**価値合理的行為**、③その場の感情や気分によって行われる**感情的行為**、④慣れ親しんだ刺激に対する無意識の習慣的な反応である**伝統的行為**の四つに分類した。

またJ. ハーバーマスは、言語を媒介にして自己と他者が相互了解や合意形成を目指して行われる**コミュニケーション的行為**、他者の選択を計算に入れたり、あるいは他者の選択に影響を与えたりすることで自己の目的の実現を目指す**戦略的行為**などに行為を分類している。

2. 地位と役割

地位とは社会関係における位置またはカテゴリー（社会関係におけるランクという意味もある）である。これに対して役割とはある地位の占有者に、社会が用意している規範的な行動様式、しなければならない、あるいはするのが望ましい行動のパターン、権利義務の体系を意味している。地位－役割の下位概念としては、**地位群**（一人の人間に結びつく様々な地位）、**地位系列**（時間の経過において社会的に形式化された地位）、**役割群**（一つの地位の占有者に課される複数の役割）、**役割葛藤**（複数の他者から相反する役割期待にさらされるジレンマ状態）などがある。

3. 社会的ジレンマとフリーライダー

社会的ジレンマとは、個人レベルの合理性追求が結果として社会的な不合理を招来してしまうこと、もっとわかりやすくいうと、複数の行為者の一人ひとりが相互に規制しあうことなく自分の利益を追求して行動した結果、集合財の悪化を引き起こし、みんなが自分の利益追求を抑制した場合と比較して、誰にとっても不利益な結果を招いてしまうことである。

フリーライダーとは、非協力を選択し、あるいはコストを負担せずに利益のみを得ようとする人、「ただ乗りする人」のことである。ある人々が公共財の提供を受けるための協力行動やコスト負担を避け、ただそこからもたらされる恩恵にのみ浴しようとする傾向のことをM. L. オルソンは**フリーライダー問題**とよぶ。フリーライダーが増えれば、協力的行動をとること、コスト負担を選択する人が搾取される一方であるという状況が作り出され、最後には進んでそうする人がいなくなり、公共財の維持が困難になるだろう。その意味でフリーライダー問題も社会的ジレンマの一種であるといえる。

4. 社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）

パットナム (Putnam,R.D.) は、**社会関係資本**を個人間のつながり、つまり社会的ネットワークと、そこから生じる互酬性と信頼性の規範であると述べている。またパットナムは、社会関係資本を同一集団内の効用のみを高める**結合型（ボンディング型）**と異なる集団間において効用を高め合う**橋渡し型（ブリッジ型）**とに分類している。前者は、たとえば家族内やエスニックグループ内部でのつながりで、所属するメンバー間の信頼や結束を大きくする。しかし、「結合型」の社会関係資本は、メンバーの帰属意識を強化するが同時に異質な者、新参者に対する寛容性を減退させ、排他的な社会を生み出す原因ともなる。それに対して、後者は、たとえば同僚の知人、父親の友人といったように、グループの枠組みを超えた弱いつながりを特徴とするが、その弱いつながりが異質な資源へのアクセスの途を開いたりもする。

II. 家族

「家族」からの出題に対しては、**直系家族、定位家族、核家族**等、家族を理解するための基礎的な概念をよく理解した上で、「国民生活基礎調査」等に示されている最新の**世帯の動向**をおさえておくことが必要である（第26回試験では国民生活基礎調査における世帯状況を、第27回では家族と世帯の概念を、第30回試験では65歳以上の者のいる世帯の世帯動向を問う出題があった）。

1. 家族に関する基礎概念

1) 核家族

G. P. マードックは、一組の夫婦とその子供からなる単位が人類にとって普遍の社会集団であるとし、

これを**核家族**とよんだ。核家族が親子関係を中心に縦に連結したものが**拡大家族**、核家族が夫婦関係を中心に横に連結したものが**複婚家族**である。また、自分が生まれ育った核家族を**定位家族**、自分が婚姻によって新たに形成した家族を**生殖家族**とよぶ。

2) 直系家族制／夫婦家族制

家族制度とは、社会における家族の基本的なあり方のことであるが、**居住規則及び財産の継承という基準**から分類された家族制度が複合家族制、直系家族制、夫婦家族制である。**複合家族制**は、2人以上の子どもが親と同居し、親の死を契機として財産を均等分割して分裂することを原則とする家族制度であり、平均寿命が短く生産性の低い社会に見られる。**直系家族制**は、子どものうち誰か1人だけが結婚後も親元にとどまって同居し、跡取りとして家産及び優先的な地位を独占的に継承することを原則とした家族制度であり、農業など家族が生産共同体の単位となっている社会に多く見られる。**夫婦家族制**は、一組の夫婦の結婚とともに誕生し、子育て期間を経て、やがてすべての子どもが結婚などを契機として親元を離れ、その夫婦の死によって終了する一代限りのものであり、親の財産は子どもに均等相続される。夫婦家族制は、労働力の社会移動が大きい産業社会を背景とする家族制度である。

3) 近代家族

近代社会とともに現れる「家族のあり方」のこと。①核家族というスタイル（夫婦家族制）、②家族のメンバーの間に**強い情緒的關係**がみられること、③母親が家事育児をすること（**性別役割分業**）、④**公的領域に対する私的領域**としての位置づけなど、われわれが「これこそ家族である」と感じるような家族を、落合恵美子は、「歴史的なひとつの類型だという自覚をこめて」**<近代家族>**とよんだ。

2. 世帯

世帯とは、居住と家計を共にする者の集まりであり、国勢調査や国民生活基礎調査などで用いられる行政上かつ統計上の概念である。国勢調査では世帯を大きく**一般世帯**と**施設等の世帯**に分類している。一般世帯は「家族」と重なる部分が多いが、世帯には別居している家族員が含まれない、同居している非家族員は含まれるという点で、家族と厳密には一致しない。

第26回 問題19

「平成23年国民生活基礎調査」（厚生労働省）による世帯状況に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 全世帯の世帯人員別世帯数では、2人世帯よりも3人世帯の方が多い。
- 2 全世帯の世帯類型別世帯数では、父子世帯が母子世帯よりも多い。
- 3 15歳以上の者の仕事ありの割合を年齢階級別にみると、男性では「30～34歳」を底とするM字型となっている。
- 4 65歳以上の者のいる世帯では、夫婦のみの世帯より単独世帯の方が多い。
- ⑤ 65歳以上の者で子どもと同居する者のうち、配偶者のいない子と同居する者が、子夫婦と同居する者よりも多い。

平成30年 国民生活基礎調査の概況（世帯）

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa18/index.html>

1. コミュニティをめぐる理論

1) コミュニティ／アソシエーション

R. M. マッキーバーは、人間生活における関心が包括的なものなのかそれとも特定のものなのか、また、その発生が自然的なものなのかそれとも人為的なものなのかという二つの点を基準として、社会集団をコミュニティとアソシエーション (community/association) とに分類するが、人々が特定の目的を達成するために人為的に組織した集団である**アソシエーション**に対して、**コミュニティ**を①自然に発生し、②多機能的で職住が明確に分離していない空間的な領域であって、③その構成員たちが生活全般に及ぶ関心を共有しあい相互扶助的な共同生活を営む集団であるとした。

2) コミュニティ解放論

B. ウェルマンは、都市化にともなう人間関係の変容に対する問いを「コミュニティ問題」とし、それに対する解答として、都市化によって人と人の絆が地域から喪失したという見解 (コミュニティ喪失論)、都市化にもかかわらず人と人の絆が相変わらず地域の中に存続しているのだという見解 (コミュニティ存続論) があることを指摘した。また、ウェルマンは、以上2つの見解に対して、交通・通信手段が飛躍的に発展した現在、人と人の親密な絆が必ずしも地域という空間に制約される必要はないのではないか、その絆は空間的な制約から解放され、分散的なネットワークの形をとって広域的に存在しうることを指摘する。そのような考えを**コミュニティ解放論**という。

2. 限界集落

大野晃によって提唱された限界集落とは、山間地域や中山間地域などを中心に進む過疎化・高齢化によって**人口の50%以上が高齢者となり、共同体を維持するのが限界に達している集落**を指す。そのような限界集落では、集落組織の運営を担う区長・副区長などの役職者を確保することができなくなると同時に、農作業や産業基盤の管理、冠婚葬祭など共同体を維持するための機能が果たせなくなり、やがて消滅へと向かうとされている。

3. その他の地域社会学における重要用語

1) グローバル・シティ

グローバリゼーションの過程において形成される**資本と労働のトランスナショナルな移動ネットワークの結節点となるような世界都市**で、そこには膨大な資本や情報、さまざまな文化や人が集まるとされる。S. サッセンなどによれば、グローバル・シティではグローバルな活動の中核管理機能を支える管理職・専門職が集積する一方で、移民労働者などが低賃金労働者として労働市場の底辺部へと繰り込まれるなどして階層分極化が進む。

2) インナーシティ問題／ジェントリフィケーション

都市中心部を取り巻く地域で、住宅、店舗、工場などが混在する地域を**インナーシティ**というが、これらの地域はインフラへの投資が行われなまま放置され、人口や雇用が減少し、エスニックマイノリティや貧困層の集住地域が形成されがちであった。インナーシティで生じる住宅等の老朽化、失業や貧困、人種エスニック問題などの都市問題を**インナーシティ問題**という。しかし、1970年代後半以降、インナーシティをめぐる状況は大きく変貌した。都市の中心部では低所得者層の老朽住宅地域が修復され、高層マンションや最新のオフィスビルが次々と建設されていき、居住者が低所得者層から中間層に入れ替わっていく。このこと

をジェントリフィケーションという。

3) サステイナブルシティ／コンパクトシティ

都市化した社会のライフスタイルが地球環境問題をもたらすことから、都市のあり方を自然や社会の持続可能性という観点から再構築しようとする都市像を**サステイナブルシティ**という。サステイナブルシティは、都市開発において、職住近接の土地利用計画を取り入れ、省エネルギー型のオフィスや住宅、緑地の回復、車に依存しない都市交通システムの実現を目指している。サステイナブルシティを実現するための都市形態として期待されているのが**コンパクトシティ**である。コンパクトシティは、人口減少局面を迎える時代の都市政策として、土地利用における郊外化を抑制し、徒歩や自転車で行ける現存する圏域内に職住や多様なサービス機能を効率よく集積させたような都市モデルである。

IV. 社会集団及び組織

この項目の頻出テーマとして、**官僚制**をあげておく。官僚制とは近代社会に特有な組織原理（管理運営システム）であるが、医療ミスとその隠蔽問題や食品表示の偽装など、現在その歪みが様々な形で社会の表面にあらわれるようになってきている（社会学ではこれを**官僚制の逆機能**とよぶ）。

そのような官僚制の弱点を克服する組織原理として期待されているのが**ネットワーク**であるが、このネットワーク原理で駆動する組織の典型例がNPOだといえる。「**官僚制からNPOへ**」という流れで組織の問題を理解することが必要（第23回試験、第26回試験では近代官僚制を、第24回試験ではNPO（法人）をテーマとする出題があった）。

ゲマインシャフト／ゲゼルシャフト、コミュニティ／アソシエーション、第1次集団／第2次集団といった「社会集団の分類」も要確認ポイントとして指摘しておく。社会集団の分類に関連するキーワードは、設問のテーマとしても、また、個々の選択肢で問われる重要キーワードとしても、過去10年間で最も出題頻度が高い。その提唱者名、分類の基準、その具体例などを言えるようにしておくのがよい（第26回試験では「**テンニース**」「**第一次集団／第二次集団**」が、第28回試験では「**社会集団の分類**」が出題された）。その他にも余裕があれば**生成社会／組成社会**（F. H. ギディングス）、**基礎社会／派生社会**（高田保馬）、**準拠集団**（R. K. マートンなど）などについても確認しておくことが望ましい。

1. 官僚制

官僚制は、巨大で複雑な組織の目標を達成するために、手段的な機能が最も能率的に発揮される合理的な管理運営の体系である。M. ウェーバーにとっての官僚制とは**合法的支配**の典型であり、その特徴として、1) 規則による職務の配分、2) 階統制（ヒエラルヒー）、3) 公私の分離、4) 文書による事務処理、5) 専門的職員の任用、6) 没人格的であることなどがあげられている。R. K. マートンは、官僚制の原則である規則の遵守や厳格な階統制が、逆に急な環境変化への適応を阻害し組織行動の非効率に帰結するという**官僚制の逆機能**を指摘した。また、M. リプスキーは、政策決定に係わるテクノクラート官僚に対して、警官、教員、ソーシャルワーカーなど政策決定に携わることなく官僚制の最末端である「**窓口**」でクライアントと対面し、法規を遵守することに縛りつけられている現業員を**ストリート・レベル官僚**とよんでいる。

第26回 問題18

近代官僚制に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 官僚制組織は必ずしも規模が大きいとは限らないので、明文化された規則がない。
- 2 官僚制組織においては、権限のヒエラルヒーが明確であるため、上司と部下のパーソナルな関係が重視される。
- ③ 官僚制は形式合理性を重視するがゆえに、実質合理性を失って、逆機能的になることがある。
- 4 官僚制は組織目的を効率的に達成するために、職務を専門化することなく、口頭での連絡を重視する。
- 5 官僚制は職務が平等に配分され、権限の上下関係もない水平的な組織である。

2. 社会集団の分類

1) ゲマインシャフト／ゲゼルシャフト

F. テンニースによる分類。**ゲマインシャフト**は相互に愛しあい、親しみあう**本質意志**に基づいて形成された家族や村落などの集団。**ゲゼルシャフト**は諸個人が互いに自己の目的を達成するために**選択意志**に基づいて形成された会社や政党などの集団である。

2) コミュニティ／アソシエーション

R. M. マッキーバーによる分類。**コミュニティ**はマチやムラなど地域に根ざして自然発生した共同生活体であり、成員は相互に共属感情と包括的な関心を有している。**アソシエーション**は特定の類似した関心や目標をもつ人々が、それらの関心の充足や目標達成のために人為的に組織した集団であり、家族・政党・学校などがこれに相当する。

3) 第1次集団／第2次集団

C. H. クーリー他による分類。**第1次集団**は家族・近隣・遊び仲間など、直接的な接触による親密な結合を特徴とする集団で、「道徳意識」を形成する社会的基盤となるもの。**第2次集団**は学校・組合・政党のように特殊な利害に基づいて意図的に組織された集団で、成員の間接的な接触に特徴がある。

表 社会集団の分類

集団分類	具体例	分類の基準	提唱者
① ゲマインシャフト ----- ゲゼルシャフト	家族、村落 ----- 企業、国家	メンバーの結合の性質 (本質意志／選択意志)	F. テンニース
② コミュニティ ----- アソシエーション	ムラ、マチ、国民社会 ----- 家族、企業、組合、国家	発生の契機、関心の包括性／特殊性	R. M. マッキーバー
③ 第1次集団 ----- 第2次集団	家族、近隣集団、遊び仲間 ----- 学校、企業、政党	接触の仕方、人格形成の 基礎性	C. H. クーリーら
④ 生成社会 ----- 組成社会	家族、部族、民族 ----- 企業、組合、政党	発生の契機(自然発生的 ／人為的)	F. H. ギディングス
⑤ 基礎社会 ----- 派生社会	家族、村落、都市 ----- 企業、組合、政党	紐帯の性質(自然的紐帯 ／人為的紐帯)	高田保馬

武山梅乗・呉炳三(2013)『第二版 社会学の扉をノックする』学文社

4) 準拠集団

個人が同調及び比較の基準としてある集団の価値に自分自身を関連づける場合、その集団をその個人にと

っての**準拠集団**という。準拠集団は**規範的機能**（個人が同一化したり、所属したいと願ったりする集団）と**比較機能**（個人が自分または他人を評価する際の基準点として用いる集団）をもつ。非所属集団も準拠集団となりうるため、マートンがいうような**社会化の先取り**が生じる。

第31回 問題19

社会集団に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 第一次集団とは、ある特定の目的のために人為的に作り出された組織である。
- ② フォーマルグループとは、企業や官庁のような一定の目的のために成文化された規則と命令系統を持つ組織である。
- 3 ゲゼルシャフトとは、相互の感情や理解に基づく緊密な結び付きによる共同社会である。
- 4 準拠集団とは、共同生活の領域を意味し、典型的な例は地域社会である。
- 5 コミュニティとは、特定の共通関心を追求するために明確に設立された社会集団である。

V. 社会システム

社会システムという概念は、社会学において基礎的なものの1つでありながら過去に出題がほとんどない。しかし、この中項目からは第26回試験で階級及び階層の概念について、第27回では社会指標、第28回では国勢調査に示された日本の就業構造、第29回では所得格差を示す指標について、第31回では社会の福祉水準を測定する社会指標についての出題があり、今後もこの中項目からの出題があると考えられる。各種の社会指標を理解することに加えて「社会システム」や「社会階層」「社会移動」といった基本的な概念の意味をおさえておくことが必要である。

1. 社会システム

T. パーソンズは、諸個人の相互行為を社会システムの構成要素とみなし、社会システムの作動メカニズムを解明しようとした。現在、「社会システム」という概念は、社会を各構成要素の一定のつながりからなる全体、しかも各要素には還元することのできない全体としてみる視点ということで幅広く理解されている。社会システムは**創発特性**という特徴をもつ。創発特性とは、諸要素がつながって一つの全体をつくる場合などに、その全体が構成要素にみられなかった特徴を帯びるようになることである。パーソンズの社会システム論では、社会システムの活動が構造と機能から説明される。各要素の安定的なパターンである**構造**に対し、**機能**は構成要素が全体の存続に対して果たしている働きのことである。

N. ルーマンは**複雑性の縮減**という機能を担った、人と人との間の**コミュニケーションの連鎖**のことを社会システムとよんだ。また、J. ハーバーマスは、近代化によって、目的合理的で功利主義的、成果第一主義である戦略的行為が優位となる過程を論じているが、その**戦略的行為**の体系であり、目的合理性の支配する世界のことをシステムとよぶ。

2. 社会階層と社会移動

あらゆる社会において富や権力、威信といった**社会的資源**は不平等に分配され、それを所有する者と所有しない者との間に「格差」が生じている。たとえば年収（富）を指標として、人々を低額所得者や高額所得者に分けることが可能であるが、そのような指標によるランキングに占める一定の位置を**地位**といい、地位を等しくする者の集まりを社会階層、社会階層が上下に積み重なったもの、もしくは特定の社会における階層構造の全体像を**社会成層**という。**社会移動**とは人々が階層間を移動することを指している。

社会移動には、親と子の間の社会移動である**世代間移動**と同一の人間の生涯における社会移動である**世代内移動**、本人の意思や努力による社会移動である**純粋移動**と人口動態や産業構造の変化などによってもたらされる**強制移動**などの分類がある。

VI. 社会変動

A. コントの**三段階の法則**（神学的段階 [軍事的社会] →形而上学的段階 [法律的社会] →実証的段階 [産業的社会]）やH. スпенサーの**軍事型社会から産業型社会へ**（第25回試験で出題）、F. テンニースの**ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへ**など古典的な社会変動論、D. ベルやA. トフラーなどによる**脱工業化（情報化）理論**、J. K. ガルブレイスやJ. ボードリヤールらの**消費社会論**など主要な社会変動論を一通り確認しておくのがよい（第26回試験ではデュルケム、テンニース、ベルらの社会変動論、第28回では消費社会をめぐるロストウ、リースマン、ボードリヤールらの社会理論を、第31回では近代社会の特徴である業績主義をテーマとする出題があった）。

1. 社会変動論（近代化論、産業化論）

第26回 問題16

近代の社会変動の趨勢に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 デュルケムは、異質な個人の分業による有機的な連帯から、同質な個人が並列する機械的連帯へと変化していきと考えた。
- 2 ヴェーバーは、近代の組織活動において計算に基づく予測可能性が低下すると考えた。
- 3 テンニースは、全体意志に基づく第一次集団が解体し、一般意志に基づく第二次集団が優越するようになると考えた。
- 4 ジンメルは、社会的な分化が進むことによって、人々が相互に交流する範囲としての社会圏が縮小していきと考えた。
- ⑤ ベルは、左右のイデオロギー対立はなくなり、プラグマティックな社会問題の解決が実現すると考えた。

「社会学の父」とよばれるA. コントは社会の発展段階について**三段階の法則**を指摘した。それは人間の精神が神学的段階→形而上学的段階→実証的段階と発展するにつれて、社会も**軍事的社会→法律的社会→産業的社会**に進化するというものである。H. スペンサーは社会有機体説の立場から、**軍事型社会から産業型社会へ**という社会進化の思想を示した（25回試験で出題）。F. テンニースは近代化とともに人々の生活が**ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへ**と移行していくことを批判的にとらえた。E. デュルケムは『社会分業論』の中で社会の発展を分業という視点からとらえ、分業の発展とともに社会が**機械的連帯から有機的連帯へ**発展することを指摘した（第26回試験で出題）。M. ウェーバーは、近代化を**合理化の過程**＝「呪術からの解放」としてとらえた。呪術からの解放とは、人間の態度や判断が迷信や宗教的な教えに基づくものから合理的なものへと変わっていくことである。W. W. ロストウは経済成長段階説において、社会の歴史発展を**伝統的社会、離陸のための先行条件期、離陸期（テイク・オフ）、成熟への前進期、高度成長大衆消費時代**の5段階としてとらえた。

2. 消費社会論

消費社会とは、生産することよりも消費させることに重きが置かれる社会であり、また有用性の消費では

なく、**記号消費**が消費の主流になるような社会であるともいえる。J. K. ガルブレイスは、生産力が向上した「**豊かな社会**」(消費社会)においては、生産者は財やサービスの生産と同時に、広告・宣伝を通じて消費者の欲望を生産しなければならなくなることを指摘し、消費者の欲望が生産者のつくり出す広告・宣伝に依存することを**依存効果**とよんだ。また、J. ボードリヤールによると、消費社会では消費のあり方が生理的・機能的欲求に基づくモノの実質的機能の消費から、モノの記号的意味の消費に移っていくという。消費社会において消費者は、モノの有用性や機能よりもモノに貼り付けられた社会的にポジティブな意味、すなわち**財の記号的価値、象徴的価値を消費**しているのである。

Ⅶ. 「生活の捉え方」からの出題

「生活の捉え方」に関する出題のほぼすべてが「**ライフサイクル**」及び「**ライフコース**」をテーマとした問題である。この2つの概念がもつ含みをしっかりと把握しておく必要がある(第23回試験で「ライフサイクル」、第27回試験で「ライフサイクル」や「ライフコース」、第29回試験で「ライフサイクル」に関する出題があった)。

1. ライフサイクル

生命をもつものの一生にみられる規則的な推移が**ライフサイクル**である。個人と社会の間の多様な関係を時系列的にとらえるための座標軸であるともいえる。ライフサイクルの応用例のうち、最も著名なものが**家族周期**である。家族周期とは、結婚によって形成され、新婚期、育児期、子どもの独立期、老後期などの段階を経て夫婦の死亡によって消滅する家族の全過程である。家族周期の「周期」の段階設定には、家族生活を5年あるいは10年といったように一定の期間に区切って観察する**等間隔整理法**、結婚や子どもの出生などのように家族生活について変化をもたらす出来事について**コーホート**(出生を同じくする統計的な集団)ごとに発生年齢の平均値や中央値などで家族のライフサイクルを描く**イベント年齢比較法**、家族生活に観察される主要な出来事を基準に家族生活をいくつかの段階に区切る**段階設定法**などがある。

2. ライフコース

ライフコースは「個人の人生航路、年齢別に分化した役割と出来事を経つつ個人がたどる生涯の道」と定義できる。家族周期は、人生に規則的な推移があることを前提として、段階を設定して人生を観察する手法であるが、人生80年になり、人生の後半のあり方が多様になっている今日、「規則的な推移」という観点から実態をとらえることが困難になってきた。そこで、「個人の人生航路」に着目し、諸個人の相互依存のなかに家族の展開をとらえなおそうとするライフコースの発想が登場した。

第27回 問題19

人の生涯の軌跡に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ライフサイクルとは、個人の一生における規則性を経済状態からとらえる概念である。
- 2 家族周期とは、子どもの出生から始まる家族発達上の規則性をとらえる概念である。
- 3 日本人のライフスタイルは、大衆の分化によって画一化の傾向を強めた。
- ④ **ライフコース**とは、個人がたどる多様な人生のあり方をとらえる概念である。
- 5 ライフイベントとは、同時代の人々が共通に経験する歴史的出来事である。